秋高 同窓会だより

題字は辻兵吉会長

発行者　秋田県立秋田高等学校同窓会
秋田市手形中台1番地
TEL 018（832）9553
印刷　有限会社　三浦印刷

納涼随想　幸野　稔
ポラリス　平部佳枝
恩師訪問　鍋島太郎先生
短歌　加賀谷　実
小玉　隆

運動会風景

卒業生の進路状況
理事会・役員会
つどい
放送部特集
部活動の記録

〈同窓会だよりは再生紙を使用しております〉

納涼随想

異文化交流と高校生

幸野　稔
（秋田大学名誉教授・昭和32年卒）

二〇〇五年四月、しばらくぶりで秋高入学式に参列して、かつて学級担任として新入生を迎えた若き頃を思い出していた。孫の入学のためではなく、タイからのＡＦＳ交換女子留学生のサニーの付き添いとしてであった。

一九六〇年代に秋高に在学された方々は、当時ほぼ毎年ＡＦＳ留学生が派遣されていたことや、一九六四年のサマープログラムによるアメリカ人女子生徒の受入れをご記憶ではないだろうか？当時秋高の英語教員だった私にとって、派遣生・受入生のお世話をすることはかけがいのない喜びであった。英語教育が異文化交流の貴重な媒体となることを実感させてくれたのである。

秋田県からの最初のＡＦＳ生（日本としては二期生）が派遣されたのは一九五五年で、秋高と大曲高から各一名であった。高校生の海外留学など夢のまた夢であった当時、秋高同期生の渡米は強烈な印象を私に与えた。

実は、その後私もＡＦＳ受験に挑戦したのであるが、最終試験で見事に振られたのである。しかしながら、その経験は私にとって決して無駄ではなく、それをばねにして、多文化共生のための英語教育を志し、後にオーストラリアへの現職教員派遣という形で留学の夢も果たしたのである。

さて、秋田大学で定年退職を間近に控えた二〇〇四年三月、ＡＦＳ日本協会秋田支部が発足した。ＡＦＳへの思い入れゆえに協力依頼を断わりきれず、副支部長として現在に至っている。

サニーを秋高に受け入れていただいたのは、支部発足二年目のことであった。進学校の厳しさの中で、先生たちから分け隔てのないご指導をいただいたのは大変ありがたいことであった。そのおかげで、日本語弁論大会に出場し、外務大臣賞の栄誉に輝いたのである。

サニーの秋高生活の感想をご紹介する。「友達もすごくやさしくて、たっくさんのことを教えてもらいました。先生方もとても親切なので、私は大スキです。…秋田高校最高でした。ぜったい忘れられないです。」（『ＡＦＳ秋田支部年間活動レポート』第二号、二〇〇六年）

同窓生の皆さん、もしご家庭に中学生や高校生がおられて、異文化交流に関心をお持ちならば、ぜひ海外留学に挑戦させていただきたい。多感な高校時代の異文化体験は人生のかけがいのない宝になることは疑いない。

また、皆さんご自身が興味をお持ちならば、ホストファミリーとして受入生のお世話をしていただくとか、高校教員の方々には、ホストスクールを引受けていただけるならば幸いである。異文化交流は、高校生のみならず、周りの方々を含めた体験の共有の中で実効あるものとなるからである。

平成18年度末 人事異動

▽転出（転出先）

校長　菅原　洋（退職）
教頭　松下　光夫（県立比内養護学校長）
事務長　長澤　善徳（生涯学習センター副所長）
教諭　工藤　昭二（秋田西高校）
教諭　熊谷　禎子（本荘高校）
教諭　平野　則夫（能代西高校）
教諭　伊藤　容子（研修解除　聖霊高校）
主事　石塚　裕樹（県立図書館）
主事　金谷亜希子（金足農業高校）
臨時講師　遠藤　幸樹（秋田明徳館高校）
臨時講師　田仲　健（大館鳳鳴高校　新採用）
臨時講師　鈴木　道生（新屋高校）
臨時講師　佐藤　康三（退職）
実習助手　土田　恭子（退職）
臨時実習助手　菊池　郁子（退職）
非常勤講師　菅原　優子（退職）

▽転入（転入元）

校長　柴田　義弘（横手高校長）
教頭　古内　一樹（秋田南高校）
事務長　武田　誠司（秋田明徳館高校）
事務長補佐　渡部　潤治（由利高校）
教諭　松田　聡（教育庁高校教育課）
教諭　杉山　学（本荘高校）
教諭　川田　信（秋田南高校）
教諭　須田　直子（五城目高校）
教諭　伊藤　匡（新屋高校）
教諭　南部　勲（本荘高校）
教諭　細川　要（本荘高校）
教諭　舘岡　曜子（秋田工業高校）
主任　鎌田多恵子（秋田西高校）
臨時講師　吉田　舞子（市立御所野学院）
臨時講師　佐藤　博之（秋田明徳館高校）
非常勤講師　石塚　健悟（早稲田大学　新卒）
非常勤講師　高橋　恵（秋田北高校）

第一回理事会に80名

平成十八年度の第一回理事会が、六月二十八日の午後六時から、秋田市のホテルメトロポリタン秋田で約八十人が出席して開催された。会では、挨拶に続いて各種報告が行われた後、平成十七年度決算や十八年度の事業計画並びに予算等について審議し、すべて原案通り承認した。

開会の挨拶で辻兵吉会長は、まず、菅原洋前校長の早期退職を惜しむとともに柴田義弘新校長へ大いなる歓迎の意を表した。次いで会長は、少子化傾向のなかで、歴史と伝統を誇る母校が、公立高校の雄として全国的にさらに充実発展していくことへの期待を述べ、そのため同窓会としても全力で支援していく旨の決意を披瀝するとともに、会員諸氏の協力を要請した。

次いで挨拶に立った柴田校長は、冒頭、現在の生徒数は校歌にある「一千健児」を下回って九百五十名となり、そのうちの四十パーセントが女子生徒であることを紹介した。次いで校長は文武両面から学校の現状を紹介したが、まず学業面では、今春の大学入試で東大合格者数が昨年に引き続いて十人（現役八・過卒二）の二桁に達したこと、現役八名は仙台二高と並んで東北地方ではトップである事実を披露して注目を集めた。一方、部活動関係では、山岳、ボート、卓球、剣道、フェンシング等が団体または個人で、八月に大阪で行われるインターハイへの出場が決定していることを披露するとともに、東北大会で準優勝したラグビーや中央地区大会で優勝した硬式野球の活躍にも言及して、今後の一層の協力と支援を要請した。

この後、恒例によって辻会長が議長席に着き、次第に従って各種の報告に移る。

最初は、会務報告で、仙波事務局長が資料に基づきながら手短に会務一般の報告をした。

次は常置委員会報告で、企画・佐々木博良、財政・速水洋子、名簿・工藤雄一、広報・柴山芳隆の各委員長がそれぞれの所管事項について簡潔に報告した。

理事会は次いで議事に入り、まず仙波事務局長が平成十七年度決算（一般会計・基金会計・名簿会計・退職金積立会計）について説明。小玉康延監事から監査報告を受けた後、満場一致で十七年度決算を承認した。

最後に理事会は平成十八年度の事業計画ならびに収支予算案について事務局長から説明を受け、それらに関して慎重に審議した結果、総額一千九百万円余りの予算案を含め、すべてを原案通り承認して会を閉じた。

第一回役員会

今年度最初の役員会が、六月五日の午後五時からシャインプラザ平安閣で行われ、辻兵吉会長以下、会を構成する十七名の役員のうち十五名が出席した。

まず、会長挨拶に引き続いて事務局や常置委員会からの各種報告を諒承。その後議事に入り、平成十七年度決算や十八年度予算について慎重に審議した結果、事務局提出の原案を一部修正して、第一回理事会への原案を決定した。

常置委員会異動

▼企画委員会

〈退　任〉

委　員　寺田　和夫（学）

（広報へ）

〈就　任〉

委　員　有明　雅弘（学）

▼財政委員会

〈退　任〉

佐藤　公世

船木　文子（学）

（転勤のため）

嵯峨　成一（学）

〈就　任〉

関　一（学）

渡部　潤治（学）

▼名簿委員会

〈退　任〉

工藤　昭二（学）

（転勤のため）

〈就　任〉

和田　央（学）

▼広報委員会

〈退　任〉

西山　光子（学）

（ＡＩＵ研修のため）

〈就　任〉

寺田　和夫（学）

舘岡　曜子（学）

天上天下

必要があって、ずいぶん久方ぶりに『きけ　わだつみのこえ』を読んだ。それぞれ短い文章ではあるが、両親や兄弟姉妹などに宛てられた手記には肉親への愛情と惜別の情が切々と綴られているし、友人知人への手紙には惜別とともに感謝の気持ちが多く述べられている。もっと長く会っていたかったと、恋人に対する率直な心情を吐露した文章もあった。国のために死ぬことを誇りに思うと書かれた遺書に接すると、その当時の日本国は、純粋な学徒達が命がけで守るために価する国家であったのだろうかと想像され傷ましい気持ちになる。▼六〇年安保の当時、「声なき声」という表現を時の総理大臣が頻用して話題になった。今ならさしずめ〈流行語大賞〉というところであろう。▼昨今、憲法や教育基法をめぐっての議論が喧しい。もちろん、政治の場での討論や法律的観点からの議論も大切だが、戦死した学生達のみならず、「こえ」を残すことすらできないまま死んでいった若者達の戦争に対する思いや訴えにいま一度真摯に耳を傾けてみる必要があるのではなかろうか。

平成十八年度 進路状況報告

進路指導主事　庄司　強

今年三月の卒業生総数は311名。八クラス体制となって最初の学年でした。卒業者数が減ったため、合格者総数は減少しましたが、合格率76％（昨年比+1）、進学率75％（+4）と大幅にアップしました。これは最近四十年のデータでは最高の数値になります。

東大の合格者は8名（+2）で、昭和四十八年の9名の次に多く（平成三年も8名）、東北地区では仙台二高と並んでトップであり、現浪あわせて東大10名の二桁合格は二年連続の朗報となりました。

一　今春卒業生の入試概況

出願者は延べ数で、国公立大361名、私立大547名（センター試験利用243名）でした。国公立大合格者は総数165名（昨年比-28）で、前期119名、後期32名、推薦・AO14名でした。私立合格者延数は206名（-13）で、一般96名、センター利用98名、推薦・AO12名であり、進学者はそれぞれ158名（-21）、67名（+0）でした。

現役生の主な大学の合格者数は別表のとおりになります。北海道13（昨年比+9）で、平成元年以降二番目に多く、東北21（+1）、秋田29（-3）、一橋2（+1）となりました。最近志望者の多い国公立医学部医学科合格者数は9（-3）であり、内訳は秋田の地域枠推薦1、一般推薦6、前期2でした。また、私立大学では青山学院14（+3）、慶應3（-4）、早稲田12（-2）、明治19（-1）、中央19（+12）という状況になっています。

二　過年度卒業生の概況

北海道5、東北13、東京2、京都4、国公立医学部医学科8となりました。現役のとき惜しいところで不合格だった人も意欲を持って継続することにより、ほとんど合格しています。

三　平成十八年度入試の特徴

大別して四点に集約されます。①昨年に続き全国的受験人口の減少と国立大「センター試験七科目化」の影響を受けて、センター試験志願者が減少し、入試倍率が全体にやや緩和された。②センター試験では英語・国語・物理・生物で大きく平均点が上がった。新課程初年度のセンター試験の平均点は過去の例からも高くなりがちであったが今回も例外ではなかった。本校でも総合で昨年比約40点アップし、文系の六教科七科目の総合900点満点の平均点は708・6点、理系の五教科七科目の平均点は715・5点であった。また、9割以上の得点者は、24名（+14）7割以下が30人だけであった。③本校は東北の他県の進学校に比べ、志望大学が全国に分散する傾向が以前から強く、北は北見工業から南は琉球に至るまで志望が広がっている。④現役生の出願が増えた大学は、北海道21名（+9）、筑波15名（+5）、千葉28名（+6）、東京16名（+2）、一橋9名（+3）、東京学芸17名（+6）、首都大東京11名（+6）であり、例年のように首都圏志向が強かった。逆に、出願者が大幅に減ったのは東北47名（-14）、東京工業3名（-7）、京都3名（-8）であった。東北の合格者は昨年とほぼ同じであったが、東京工業・京都は残念ながら合格者がいなかった。毎年志願者が多かった新潟は志望者が14名（-17）と大幅に減り、合格者も8名と平成に入って初めて二桁を割っている。

四　平成十九年度入試について

後期試験を取りやめる大学・学部が増え、推薦入試やAO入試が増加するなど、入試方法が一層多様化・煩雑化

総会のご案内

平成18年度の総会を左記により開催しますので、万障お繰り合わせのうえ、ご出席下さいますようご案内致します。

日　時　平成18年8月20日（日）午後2時
場　所　シャインプラザ平安閣秋田
記念講演　林　左絵子　氏
（昭和52年卒・国立天文台ハワイ観測所）
演　題　「宇宙の彼方に地球の生い立ちを探る」
懇親会　午後4時30分（会費　5000円）
※一般会員で出席ご希望の方は、お手数でも同窓会事務局（☎018―832―9553）にご一報下さるようお願い致します。

株式会社ヤマキウ
代表取締役
小玉康延
（昭和31年卒）
〒010-0011
秋田市南通亀の町4番15号
電話　018（833）5350

真心があります。チャレンジします。
秋田中央卸売市場
㈱秋田県青果株式会社
代表取締役社長
高橋良治
（昭和31年卒）
〒010-0802
秋田市外旭川字待合28番地
電話　018（869）5511

かぜに改瀬　株式会社カイゲン
取締役会長
成田樹太郎
（昭和31年卒）
〒130-0011 東京都墨田区石原4-25-14
Tel. 03(5819)2815 Fax. 03(5819)2814
本社
〒541-0045 大阪市中央区道修町2-5-14
Tel. 06(6202)8971 Fax. 06(6202)8980

損害保険・生命保険
プランニング・オフィス
有限会社ジャパンファミリー
取締役会長
松野　厚
（昭和31年卒）
代表取締役社長
長谷川悦雄
（昭和43年卒）
〒010-0952 秋田市山王新町15－23
☎ 018-896-5920 FAX 018-862-3526

する中で、本校生の「入りたい大学」は今後も易化しそうにない状況といえます。文武両道を実践し、「入れる大学」でなく「入りたい大学」を目指して生徒・職員とも頑張りたいと考えております。

二十一世紀の各界で卒業生が大きく羽ばたくことを願ってやみません。今後も同窓会諸氏の力強いご支援・ご協力を期待いたしております。

大学合格者数一覧表（おもな大学）

大学名	現	過	計	大学名	現	過	計
北海道	13	5	18	金沢	3	1	4
弘前	2	4	6	静岡	2		2
岩手	2	1	3	京都		4	4
東北	21	13	34	鹿児島	1		1
宮城教育	3		3	琉球	1		1
秋田(教)	9	1	10	秋田県立	1		1
秋田(医医)	9	4	13	国際教養	2		2
秋田(医保)	7		7	高崎経済		1	1
秋田(工)	4		4	首都大学東京	5		5
山形		1	1	**国公立計**	**165**	**57**	**222**
福島	1		1	東北薬科	2	5	7
茨城	2		2	青山学院	14	4	18
筑波	7	2	9	北里	2	7	9
埼玉	9	2	11	慶應義塾	3	7	10
千葉	11	2	13	上智	4	3	7
お茶の水	3		3	中央	19	10	29
東京	8	2	10	東京農業	2	7	9
東京外語	3	1	4	東京理科	13	12	25
東京学芸	9	2	11	日本	6	6	12
東京工業		1	1	法政	6	6	12
東京農工	1	1	2	明治	19	9	28
一橋	2		2	立教	8	4	12
横浜国立	3	1	4	早稲田	12	11	23
新潟	8	2	10	立命館	2	5	7
富山	2	1	3	**私立計**	**206**	**136**	**342**

期待の人

針金晃太郎氏（平成13年卒）
国際ダンス選手権に出場

針金氏がダンスに出会ったのは秋高三年の時。氏は中学時代から陸上部に所属していたが高校でもそれを継続、八百Mを最も得意にしていた。

高三の時、ダンスで姿勢がよくなると陸上の成績も伸びると友人に誘われ、秋田市内のダンス教室に通い始めた。最初は陸上のためのダンスであったが、次第にダンスそのものに魅せられていく。

進学した千葉大学でも競技ダンス部に所属して数々の国内大会で優勝。しかし、最後の全日本選手権では準決勝どまりの悔しさを余儀なくされ、それが昨年六月にプロデビューするバネとなった。

二〇〇五年度東京ボールルームダンスアカデミー最優秀新人賞を受賞するなど、デビュー後の華々しい活躍が評価され、今年六月に東京で開催された「日本インターナショナルダンス選手権大会」への出場を果たした。この大会は社交ダンス界の三大大会の一つで、海外からも有力選手が集う権威ある大会である。

残念ながら、今回は決勝への進出はならなかったが、今後の一層の精進と大いなる飛躍に期待したい。

平成18年度 年会費納入のお願い

同窓会年会費制が始まって11年目を迎えました。会員皆様のご協力に感謝いたします。しかしこの1～2年若干納入者減となっております。18年度分納入は7月発行の「秋高同窓会だより」に同封した「払込取扱票」によって納入していただくことになりますが、下記の通りお願い申し上げます。

1．年会費　2,000円
　　原則として単年度分
　　郵便振り込み
2．高校卒業後4年間は免除されます
　　（平成15年以降）

口座番号　02500－6－54147
加入者名　秋田県立秋田高等学校同窓会
　　会長　辻　兵吉

会費納入状況（平成8～17年度）

年度	金額	年度	金額
平成8年度	12,441,560円	平成13年度	14,220,000円
平成9年度	10,827,000円	平成14年度	12,874,000円
平成10年度	12,856,000円	平成15年度	12,744,000円
平成11年度	14,727,000円	平成16年度	12,710,000円
平成12年度	14,126,000円	平成17年度	12,674,000円

安田内科医院
院長
安田忠彦
（昭和31年卒）
〒010-0021
秋田市楢山登町3番11号
電話 018（835）8031

美好腎クリニック
内科・血液透析
中西祥子
（昭和40年卒）
〒183-0045
東京都府中市美好町3－13－2
グランディ府中1F
TEL 042－366－8333
FAX 042－366－8431

PARTY GALLERY
笑顔ステーション
すべての喜びは、いつもここから
代表取締役社長 北嶋 正（昭和41年卒）
イヤタカ
Tel 018-835-1188
Fax 018-831-1263
〒010-0001 秋田市中通6-1-13
URL http://www.hyataka.co.jp

印刷機材の総合ディーラー
株式会社 佐藤商事
環境マネジメントシステム
ISO 14001 認証取得
代表取締役
佐藤博
（昭和41年卒）
〒010-0921
秋田市大町1丁目5番2号
TEL 018－862－3571㈹

恩師訪問

鍋島太郎先生

母校に勤務なさった教職員の近況をお伝えするこの企画も六回目。今回は、在職中、生徒からの信望きわめて厚いものがあった鍋島太郎先生にお願いした。去る五月三十一日（水）に、わざわざ羽城館（同窓会館）までご足労願い、柴山広報委員長がいろいろお話を伺った。

初めに、秋田高校に勤務なさった時期を、校務分掌等も含めながらお知らせ下さい。

最初は、秋田大学（修士課程）を卒業した昭和四十五年四月からの講師としての一年間で、二度目は、昭和六十三年四月から平成六年三月までの教諭としての六年間でした。講師の年は副担任でしたが、教諭として努めた六年間は、一年から三年までの持ち上がりを二度繰り返しました。男子だけ、男女共学、理数科等、様々な形態のクラスを経験しました。教科は化学が主ですが、一年生担任の場合は地学も担当しました。分掌は生徒指導部や保健部等が中心で、部活関係では、レスリング部や映画同好会の他、応援委員会の顧問もしました。

秋高在職中の思い出を少しお聴かせ願いたいのですが。

講師として赴任して間もなく、二年の生徒が大変高度で難しい質問を持って来まして、さすが秋高生はレベルが高いと感心しました。また、教諭として赴任した年の年度末に甲子園のセンバツ大会（対北陸高校戦）に出かけたのも印象深く記憶に残っています。私は大学生の一時期バスケットをやっていましたので、学級対抗の折にはバスケットを中心に、生徒諸君と一緒に汗を流したのも楽しい思い出です。さらに付け加えれば、映画同好会の顧問をしていた時、映画製作に必要なビデオカメラの代金を、生徒諸君の出世払いということで私のポケットマネーから支払ったのですが、まだ出世した生徒さんがいないと見えて私のポケットには戻ってきていません（笑い）。ただ、映画を作りながら勉強もよくするというエネルギーには感心しました。

秋高を出られた後のご経歴をお願いします。

能代工業に四年、秋田北高に七年勤務して昨年三月に定年退職しました。退職した年はカナダや東ヨーロッパなどへの旅行で過ごしましたが、今年の四月から、秋田大学の工学資源学部と秋田市内の私立高校でお手伝いをしています。

学校の先生になられた動機は何でしたでしょう。

それは、利潤追求を第一の目標とする企業へは進みたくなかったのと、地元に残らなければならない事情があったことの二つが理由です。大学と高校のつながりのような仕事ができればと思いました。

学生時代の専門は燃料化学と聞いています。その点を含め、理科を選ばれた理由は？

小学校時代から理科はあまりよく分からない教科だったので力を入れて勉強しているうちにおもしろくなりました。また、大学受験時は好景気で、中でも石油化学関係に人気があったことと、化学とコツコツ付き合っているうちに、理科や数学は理屈が通っていることが理解できるようになって一層興味が湧いたのです。

石油など化石燃料というのは今後どうなるのでしょう。

無尽蔵ではないので節約が不可避です。そのためには、まず燃やす量を少なくすること、また、プラスチック等石油が原料になっているものの、リサイクル率を高めることが重要です。今のままでは百年とか二百年の単位で原料が尽きると予想されています。

昨今、理科離れが盛んにいわれているようですが。

理科離れの最大の原因は社会構造全体にあると思います。つまり、現代は経済や政治がリードする形で社会が進み、その分野の人達の活躍の場が多いし、『理科白書』によれば、理系の待遇が文系のそれよりも悪くなっています。学校教育の場に関して言うと、受験との関係で理科も机に向かっての勉強が多くなっています。もっと自然に触れたり実験を多くしたりということが必要だと思います。

最近、日本の教育全体をめぐる議論が喧しいようですが。

そうですね。まず一般的なことを言えば、お互いの立場を尊重して共存し合うという観点が不足していると思います。また、現代のような競争社会では、家庭でも地域でも、協力してやっていこうとする気風が薄弱で、弱い者にすべてのしわ寄せが集中する傾向があります。大人が変われば高校生も変わると思いますが、何をやるにしても今の時間を大切にして、今の時間内に、納得のいくものを確実に自分のものにしていく姿勢が大切です。そういうことを経験できる場を教育現場につくっていくことが望まれますね。

鍋島先生と言えばピアノという印象が強いのですが。

小学校の時に「月光」を聴いてピアノ曲に関心を持ち、大学生の頃から自分でも弾くようになりました。ピアノの演奏会にはよく出かけますが、昨年東ヨーロッパに行きました折にはショパンコンクールを鑑賞し、今回優勝したブレハッチの演奏も聴くことができました。国内のピアニストでは小山実稚恵、海外ではアシュケナージがバランスがよくて好きですね。

最後に、これからの秋高生にひと言お願いします。

あまり受験にこだわらないようにして欲しいことと、生徒と教師の間に壁のない学校であって欲しいと思います。自分と同じように他人も愛するということが大切ですし、自分で能動的に勉強して初めて分かるようになるということを理解して欲しいです。

卒業10周年記念同期会

平成8年卒

つどい

参加者百五十名超

平成十八年一月二日、平成八年卒業生の卒業十周記念同期会を、秋田ビューホテルにて開催した。

学年主任の須藤正直先生を始め、お世話になった先生方にも参加いただき、先生方を含め百五十名を超える参加者が集まり、盛大に行うことができた。

卒業後初めての同期会であり、十年ぶりに顔を合わせることになった友人も多く、話は尽きず、二時間ほどの会はあっという間に過ぎてしまった。二次会にもほとんどの人が参加し、様々な仲間と、思い出話や近況について語り合った。

秋田在住でない人も多く、普段はなかなか会うことができないものの、これを機会にまた連絡を取り合い、十年後にはぜひ卒業二十周年記念同期会を開催しよう、と誓い合った。

（高橋大　記）

大館支部総会

平成18年2月22日
於・北秋クラブ

秋中14日会（S21・22卒）

平成18年4月14日
於・ホテルセンチュリー

宴会、宿泊、居酒屋、麻雀荘
大町ビル
協働大町ビル株式会社
秋田市大町三丁目2-44（川反そば）
秋高同窓会、同期会、同級会大歓迎
☎018-863-2111
FAX 018-863-2119
URL http://www.oomachi.com/
代表取締役 浅利久樹（昭和42年卒）
取締役支配人 伊藤信雄（昭和43年卒）

猿田興業株式会社
代表取締役社長
猿田五知夫
（昭和51年卒）
常務取締役
猿田知久
（昭和55年卒）
〒010-0951
秋田市山王六丁目10番9号
TEL 018－863－1550

ふるさと秋田の代表銘菓
山ぶどう
せんべい
旭南高砂堂
取締役会長 塚本三郎
（昭和20年4卒）
代表取締役社長 塚本高
（昭和51年卒）

TKCコンピュータ会計
税理士法人 福士合同会計事務所
代表社員　税理士
福士文友
（昭和51年卒）
秋田市高陽幸町8番4号
TEL（018）864－3235
FAX（018）864－3245
URL：http://www.tkcnf.com/fukushi-kaikei/pc/
E-mail：f-fukushi@tkcnf.or.jp

南三陸にて還暦を祝う

昭和39年卒同期会

昭和39年卒業の同期会を「秋高39会in仙台」と称し、五月二十、二十一日開催した。今年の三月で全員が還暦を迎えたタイミングでの集りである。場所は秋田と東京の中間ということで仙台となったが皆さん比較的お馴染みの仙台から少し足を延ばし南三陸温泉となった。

四十四名の参加者のもと、不幸にして還暦を迎えることが出来なかった二十八名の物故者をエピソードを交えつつ赤沼幹事長が紹介そして冥福を祈り、第一部を終えた。引き続き第二部の宴会は開催地である東北支部長の岩見谷の挨拶、松本君の乾杯で始まり、佐藤功悦君の巧妙な司会のもと進められた。今回宴会の目玉となっていながら予算上『とこぶし』に変じる可能性のあった『鮑』の踊り焼きを無事賞味でき、差し入れの秋田の酒に舌鼓をうちつつ、それぞれが迎えた還暦の心境をも肴にして飲みつ語りつのひと時を過ごした。その後ホテル内でのカラオケ争奪の二次会、更には三次会に及んだ。

二日目は旭に輝く志津川湾を見ながらの露天風呂入浴に始まった。予報とは異なり、五月晴れのもと牡鹿半島巡りの観光コースとゴルフコースに分かれ、バスの中あるいは芝生上での旧交を温め、そして再会を約しての仙台駅解散となった。

（岩見谷建志　記）

45周年記念同期会

昭和36年卒

秋高36会卒業四十五周年記念同期会が五月二十日・二十一日の両日開かれた。

二十日の有志によるゴルフコンペのあと、秋田県森林学習交流館・プラザクリプトンを会場に、三年時のクラス担任をされていた畑沢先生、館岡先生、芳賀先生、岡先生と同窓会事務局長の仙波先生をお招きし、総勢八十三名という盛会となった。

在学当時がつい昨日のことのように思い出され、話題は尽きることがなかった。

翌日は有志による田沢湖方面へのバス旅行も企画されており、一同学生のような気分を満喫した。

『16回目の横の会』8/12(土)

～求む！女性参加者～

昭和45年卒同期会

お盆ウィーク定着開催の『横の会』（45年卒の愛称）も十六回目の開催となった。

毎年つけているタイトル、今回は「初めての和食だ大会」。有楽町の「山蕗」で四十四名が参加した。

同時期連続開催の良さは、「いつかは出られる」と思ってもらえること。毎回、初参加、お久しぶり参加が必ず数名いることはとてもうれしいことである。

いつも課題は「女性参加者の増員」。お盆時期、女性（主婦）がゆっくり同期会というのは簡単なことではなく、今回は二名だけであった。

そこで一度、女性だけの会『レディース横の会』（仮称）をたちあげてみようか、との案が出た。この同窓会だよりを手にとった45年卒の女性のみなさん、レディース横の会開催の時にはおいでください。卒業後三十年以上経ち、一度みんなでランチでもしましょう。

ではまた来年、こりずに企画します。どちらさまも「お盆ウィーク」お忘れなく！

（菊地えり子　記）

五年ぶり・参加64名
昭和34年卒同期会

昭和34年卒同期会は、昨年六月、会員六十四人と来賓の山谷浩二同窓会副会長、松下光夫秋田高校教頭を迎えて秋田市のイヤタカで開かれた。

還暦時以来五年ぶりの同期会は、記念写真撮影のあと、豊口祐一代表幹事の挨拶、最も遠方の大阪市から初参加した佐藤隆彦君の乾杯の音頭で懇談会に移った。

宴もたけなわのころ、秋田県議会議長の辻久男君、金浦町長（秋にはにかほ市として合併）に初当選した佐藤吉寛君、文壇その他で大活躍の西木正明君などがエピソードを交えてスピーチ。最後は当時の応援委員らのリードのもと校歌を斉唱、次の再会を約して散会した。

宇都宮支部総会
平成17年9月5日
於・丸治ホテル

S26年卒在宮城同期会
平成17年8月28日
於・岩沼屋

秋高30会

我らが30会は卒後五十年という節目を迎えた。そして古希（数えの七十歳）にもあたる。もう一つ付け加えると戦後六十年でもある。

三十、五十、七十、六十という節目が重なった昨年、毎年続けてきた「30会の集い」を「30会古希と卒業五十年を祝う会」として平成十七年九月二十四日、サンルーラル大潟で開催した。

我が30会、節目の年には同期の親睦を深めるばかりでなく「社会貢献」という高邁な精神がある。卒業四十年時は、埼玉大教授だった同期の加賀谷熙彦氏を講師に迎えての記念講演を県教委との協力で開いた。

そして今回は、秋田公立美術工芸短期大学が開催した「美短市民講演会」に、「子連れ狼」の執筆者で知られる大阪芸大教授で同期の小池一夫氏を講師として紹介する役目を果たした。小池氏の厚意や杉山良一氏らの尽力もあり、ギャラ無しの講演会だっただけに内容はもちろんのこと大いに喜ばれた。

講演終了後サンルーラルへ移動。集いは岸部恵一氏が司会。高階幸道会長の挨拶の後、橋本顕信氏の発声で乾杯。たくさんの思い出話に花が咲く中、和やかさが会場に広がった。

（遠藤欽一　記）

秋高三三会
平成17年8月20日
於・ホテルメトロポリタン秋田

東京同窓会

去る五月二十六日、ホテルセンチュリーハイアットにおいて東京同窓会平成十八年度総会が百十名以上の参加で盛大に開催された。

ゲストスピーチは三木彬生氏（昭34卒）。NHKの「プロジェクトX」でも放送された「JR―SUICA（スイカ）」の発明の裏話が生き生きと語られた。同窓生の偉業に関わる苦労話を参加者一同傾聴し、感動をおぼえた。

言うまでもなく、その後の懇親会も大いに盛り上がり、夜遅くまで賑やかな時は続いた。

工藤敏夫氏の広島大副学長を祝う会（昭47年卒）

平成17年10月9日

80期3Gクラス会

平成17年10月8日
於・フォレスタ鳥海

10年ぶり二度目の開催

昭和61年卒同期会

正月気分いっぱいの一月二日、実に十年振りとなる昭和61年卒同期会が卒業二十周年を記念して開催された。

卒業十周年の前回から五年サイクルでの開催を目標としたものの、企画・実行に至るまでは十年の歳月がかかってしまった。

その分、再会の感動や新鮮な気分が味わえ、怪我の功名といったところか。

当日は卒業担任の先生方、母校菅原校長先生、同窓会の仙波事務局長を来賓に迎え、百余名が集う盛会となった。さまざまな趣向をこらした演出は幹事一同の度重なる打ち合わせの末に生まれた苦心のアイデアであったが、参加した同期生らの満面の笑みを見られたことで、報われたのではないかと思っている。

秋田市保戸野郵便局
局長
鈴木一哉
（昭和41年卒）
〒010-0904
秋田市保戸野原の町3番20号
TEL 018（823）9631
FAX 018（824）3885

屋根工事各種・新日本石油特約店
ステンレス金物工事一式・鉄骨工事一式
石井商事株式会社
石井広樹
（昭和61年卒）
石井教行
（昭和63年卒）
〒018-1605
秋田県南秋田郡八郎潟町川崎字昼寝17の4
本社　代表　TEL 018（875）2431
湖東給油所　TEL 018（875）2620
鹿渡給油所　TEL 0185（87）2676

写真・カメラ・映像総合商社
株式会社みどり光学社
常務取締役
佐々木宏也
（昭和61年卒）
〒010-0923 秋田市旭北錦町2-36
☎ 018-862-5180 FAX 018-863-4530
URL http://www.e-midori.co.jp
E-mail sasaki_h@midori.co.jp

平成17年度

同窓会入会式

「人間として正しい生き方を」

去る二月一日、多数の同窓会関係者の参列を得て、平成十七年度秋田高校同窓会入会式が本校体育館で行われた。

最初に辻兵吉同窓会会長（昭19卒）から「たくましく有能な方々を迎えうれしく思うとともに、是非新しいチャレンジを」との歓迎の挨拶があった。

続いて、大島千明氏（昭49卒・㈱無限堂代表取締役）より先輩激励の言葉が述べられた。内容は、高校時代の制服自由化にまつわる話や、大学進学後、世間が秋田高校に高い評価を与えていることを初めて自覚したことなどが述べられた後、「人間は欲望が原動力となって頑張れる。しかし、『過ぎたる欲望は身を滅ぼす』という。それは、耐震偽装やライブドア事件等で頂点を極めつつある人が一気にずり落ちることから見えてくる。では、行動の原動力である欲望と、それにより身を滅ぼすという矛盾をどうするか。その限界は誰も答えを出せない。しかし、私の敬愛する方がこう述べている。『今頑張ってやっていることが、人間として正しい生き方なのかと考えること』と。これは難しいことのようで実は、親や先生やまわりの人から教えられ、我々の中にあるものだ。だから私は自分の生き方の中に考え思うことでそれを入れていこうと思っている。秋高生は間違いなく目標を達成できる。もうすぐそこに春が来る。あと少し頑張って下さい。卒業後、同窓の先輩が皆さんの身近にいてきっと良きアドバイザーになってくれる。」という熱い励ましの言葉を贈られた。

同窓会からの記念品（三剣菱の文鎮）は、山谷浩二同窓会副会長から生徒代表の大山拓也君に贈呈された。

羽城館企画展

十三回目を迎えた今年の羽城館特別企画展は、画家の斎藤昇氏（昭和40年卒）にご協力頂きました。ふるってご鑑賞下さるようご案内致します。

斎藤昇展

期日　七月八日～八月三十一日
　　午前十時～午後四時
　　〈土・日曜、祝祭日は休館〉
場所　秋高同窓会館「羽城館」

〈企画展に寄せて〉

北国の孤愁を描く激情の人

秋田高校美術科
教諭　細川　要

若かりし日、氏はレスリングで鍛えた体力にものを言わせ、ひたすら絵と格闘し、あわや絵と心中しかねないほどばしる情熱があった。

自他ともに傷つく危うさも秘めていたが、なみはずれて感性が豊かで、妥協を許さず、鬱屈した感情の出口を求めて苦悩している姿があった。

時代を経ても終始その姿勢は一貫している。

'04 自由美術展　蜃気楼

具象作家の登竜門「安井賞展」出品作「異邦人Ⅱ」では、疎外され、よるべなき人間の本質を鋭く突いている。

空間にとけ込まんとする群像。あいまいな色調、堅い表情は、エコールド・パリに生きた画家たちの喪失感が作品に深い陰翳を与えたように、世評になじめず、さまよい歩く氏の姿そのものであったのだろうか。

氏の作品は、愚直なまでにこだわりを見せる。緑を基調とした色彩、流れるような筆致、男・女・犬、そこには切ないまで、故郷を求めてやまない異邦人の哀しみがある。

絵は体の一部、という画家は多いが、絵にのめり込み、体を張って描ききる作家は少ない。

斎藤昇氏はまさに画歴四十年の歳月を最前線で戦い続けた人である。

自由美術協会会員・県芸術選奨受賞作家として活躍し、今や県美術界の第一人者として評価を得ているが、氏の本領は、権威に屈服せず、媚びず、人間の弱さ、優しさを描くことにある。

円熟という言葉とは無縁の、ひたむきな作風を今後も期待したい。

'95 自由美術展　異邦人

■ポラリス

伝統芸能に生きる

日本舞踊 藤間流師範 藤間佳花こと
平部佳枝（平成5年卒）

「生まれた時から三味線の音を聞いて育ったなんて羨ましいね。」と言われる事がある。私も日本文化が常に身近にある事を幸せに思う。祖母と母が日本舞踊家という環境に生まれた私は、当たり前のように日本舞踊や邦楽に触れて育ってきた。そして一度は迷ったものの、祖母や母と同じ舞踊家の道を選んだ。また主人も、祖母と父が舞踊家なので、私と同じような環境で育ち、やはりその道で舞踊家として活躍している。

流派は藤間流勘右衛門派。藤間流は花柳流と並んで日本舞踊の二大流派とされ、勘右衛門派はその中の一派で、家元は六世藤間勘右衛門、歌舞伎役者の四代尾上松緑丈である。一口に日本舞踊といっても、歌舞伎役者を家元に持つ藤間流は、京舞や上方舞のように「舞う」のではなく、歌舞伎舞踊の流れを汲む「踊る」流派である。私はこの情感に満ちた演劇的要素を要する、そして躍動感溢れる藤間の「踊り」が大好きである。

それにしても日本人が日本のものに触れる事が羨ましいとは何とも寂しい話である。近年は学校教育でも邦楽が取り上げられるようになり、またメディアでも伝統芸能に携わる人を見かける事が増えたが、まだまだ世間の伝統文化に対する敬遠は続いているように思う。日本人が着物一つ着られないようでは恥ずかしいのではないか。このままでは日本の伝統文化は消滅してしまう気がしてならない。

私は伝統芸能に携わる者の一人として、また二人の子を持つ親として、明日を担う子供達に日本の美しい文化を残したい、そしてその良さや大切さを伝えていきたいと思っている。今は子育て等日々の生活に追われ、自分の時間が持てず稽古も満足に出来ずに、思うようにならない自分に焦りを感じたりもするが、それは自分自身を磨く為に与えられた試練かもしれないと思うようになった。日本舞踊を観てもらう事、また後進への指導を通して、少しでも多くの人々に、殊に子供達に日本の伝統文化の素晴らしさを伝えたい、そして良さを心で感じてもらいたい―それが近い将来必ず叶えたい私の目標である。今はただひたすらその目標の為に出来る事に精一杯取り組み、芸を精神を、更に自分自身を磨くばかりだ。

「清元津山の月」
平成14年1月　国立劇場にて

《短歌》

汝・何の為に其処に在りや　加賀谷　実（昭和42年卒）

牡蠣鉄に牡蠣を剥がせば牡蠣の殻沈きて海に牡蠣の光おく
蟷螂の孵えりてすぐに身構える如く銃とるアフガンの子等
背にオリオン雨水の闇を白鳥は交ごも掟唱えて離る
カリカリとペットボトルを飽かず咬む犬よ寂しき事があったか
水浅き朝の川の川霧に托鉢僧の如く立つ鷺
暮れてゆく秋の日の海なつかしき我に解脱を解いたりはせず
「汝・何の為に其処に在りや」と繰り返し彼の日々我らに問いし人はも

割く　小玉　隆（昭和44年卒）

魚を割くひとのちからはこの巨き魚にうつりぬ　割かれゆく見ゆ
切つ尖にちからこむれば刃むかへるもののちからをさらに挫かむ
殺められやらむ　身を割く切つ尖に発止と息があひたるところ
四分の一身をばはなるる無きもののなほおもおもし肉の断面
出刃は出刃入れに差ししがぶち切られ刃ものくささをのこす断面
陽をすくふごとく真水をすくひつつ解体了へし手はまさびしき
おろしつつぎりぎり噛めるおとがひに淡くのこりしうろくづ数片

文芸作品募集

本紙では、随時、文芸作品を募集します。ふるってご応募のほどお待ちしております。なお、採否については、広報委員会にお任せのほどをお願い致します。

一、募集作品

(1)詩……本文三〇行以内
(2)短歌…七首で一作品
(3)俳句…七句で一作品
(4)川柳…七句で一作品
※各部門とも、必ず作品題をつけてください。

二、応募上の注意

(1)氏名と卒業年次を明記して下さい。
(2)全部門に応募できますが、一人一部門につき一編とします。
(3)使用する漢字は当用漢字とし、それ以外にはルビを施して下さい。

同窓会ホームページ（トップページ）更新のお知らせ（事務局より）

①「行事予定」に、支部総会、同期会の予定を追加した。
②「母校情報」、「同窓会ニュース」を年度別にし、最新の更新年月日を表示できるようにした。
③リンク先を増やした。
④「同窓会だより」を独立して載せ、全体と各ページ毎のどちらでも見られるようにした。

※同窓会HPに載せて欲しい記事、ご意見はメール（akidoso@cna.ne.jp）でお願いします。HPのURLは、http://www.akitahs-ob.gr.jp/

部活動紹介

放送委員会

昭和二十七年に誕生した放送委員会。平成十四年には創立五十周年祝賀会を開催するなどOB会活動も盛んである。現在は、五十五周年に向けて記念誌の発行を企画している。

一坪放送室から広々放送室へ

高橋　伸（昭和39年卒）

入学した昭和三十六年は秋田国体の年。二年生はマスゲームの練習に明け暮れて大変そう。国体は人ごとのように観ていたら、我が家が宮城県選手の民宿になっていた。陸上競技場に応援に行ったりもした。日新中学時代から放送に関わっていたので、放送部に入ることは初めから決めていた。秋田駅前にあった木造校舎で、入学して落ち着いた頃に放送室に向かった。正面玄関の右側、宿直室の前にその部屋はあった。機械室とアナウンス室が仕切られていて、狭いので皆さん立って話をしていた。

春が来て、手形大松沢の新校舎に移転することになり、これからはLPの時代とSPレコードを、残雪の中庭テニスコートに円盤投げをしていた。今思うと、もったいないことをしてしまった。そのころ卓球部が不活発で、部室から近い体育館に、この時とばかりにみんなで卓球をした。これが新校舎になっても続いた。

新校舎では、広々とした放送室と新しい機械が用意されていた。卓上型の機械だったが、校内放送の分配には使いにくくて、旧校舎から持ってきた機械を使って、新しいのは録音用としていた。部屋は広くて、会議をするにも困らないくらいだった。

駅前校舎から持ってきた音卓

大切にしたい宝物

鈴木奈々子（平成8年卒）

三年になって、中村・佐々木君とクラスが一緒となり、放送部クラスと言われた。その教室が部室の直ぐ隣で、先生が教室に入ったのを観て、クラスに向かったものだ。

高校生活最後のNHK放送コンテスト県大会で、ラジオ番組や朗読など各部門の最優秀賞、金賞が発表され「秋田高校」と聞こえた瞬間、会場内に喜びの叫び声が響き渡った。秋高放送委員会全員が一つになったあの震えるような感動を今でも鮮明に覚えている。

子供の頃からアナウンサーになるのが夢だった私は、高校入学後、迷わず放送室へ。当時の放送室には常に明るい笑顔が溢れ、一人ひとりの純粋で真剣な思いが充満していた。放送委員会は、例えて言うならば甲子園を目指す野球部と同じように、年に二回の全国大会出場という目標に向かって皆で一生懸命活動をしていた。共に笑い共に涙し同じ青春時代を過ごした仲間たち…十年以上経った今、学年を越えたその繋がりの深さを改めて感じている。久しぶりにメンバーが集まると、当時と同じ懐かしい空気に包まれる。今は、それぞれが信じた別々の道に進んでいるが、あの頃と同じ一つの思いは変わらず残っている。そんな尊敬できる仲間に出会えたことを誇りに思う。

今でも、何か辛いことにぶつかる度、無我夢中だったあの頃の自分を思い出したり、当時の仲間に相談に乗ってもらったりすることで壁を乗り越えられているように思う。また大学卒業後放送局で仕事をする中で、自分で取材をしたり番組を作ったりすることもあったが、放送委員会での経験が大変役に立っていた。

どんな時も支えてくれる仲間たち、そして夢を叶えてくれた放送委員会での三年間という時間は、私にとってかけがえのない宝物である。

高校2年生　秋のABSコンクール県大会で。みんな笑顔の結果でした！

放送委員会の『今』

委員長 三年　古村　明子

放送委員会は現在十四人で日々活動している。例年に比べると非常に少ない人数だが個々のつながりはとても密であり、今回のNHK杯の大会では総合銅賞をもぎ取ってきた。

さて、放送委員会は今年で五十四年を迎える。この間、日本のテレビ・ラジオ業界は大きく変化してきた。今やテレビ・ラジオは人々の娯楽の一部となっている。しかし、このようなマスメディアの本来の役割は「伝える」ということではないだろうか。ただの自己満足・低俗な面白さを提供する役割では決してない。

放送委員会の発足から半世紀以上経った今、私達は校内放送の役割、在り方というものを再確認しなければならない地点に立っている。「伝える」ということの意味を常に意識してアナウンス、朗読、作品制作や毎日の放送をより充実させていきたい。

卓球部全県総体二連覇！

昨年に続き優勝旗三本

今年度も五月二十五日（木）の陸上競技、バスケットボール、サッカーを皮切りに全県総体が開催された。本校は昨年度に続き、三種目（卓球、ラグビー、山岳）で団体優勝を果たした。中央支部の四種目（卓球、ソフトテニス、硬式野球、山岳）と併せて六本の優勝旗が並ぶ大活躍である。

◆陸上競技

全県総体

男子走高跳5位

佐々木孝太（東北大会へ）

◆バスケットボール

全県総体

男子

1回戦　秋田99—62能代西

2回戦　秋田49—112能代工

女子

1回戦　秋田60—65横手

◆バレーボール

全県総体

1回戦　秋田2—0十和田

2回戦　秋田0—2横手

◆卓球

中央支部総体

男子団体　優勝

予選　秋田3—0男鹿工業

秋田3—0秋田南

決勝リーグ

秋田3—2秋田商業

秋田3—1由利工業

秋田3—0秋田工業

女子団体

1回戦　秋田1—3由利

男子ダブルス　ベスト4

松橋　裕・赤坂仁志

松渕健一・渡部　潤

男子ダブルス　ベスト8

菊地達八・伊藤伸治

男子シングルス　ベスト8

松渕健一

全県総体

男子団体　優勝

2回戦　秋田3—0横手

3回戦　秋田3—1秋田中央

4回戦　秋田3—0秋田工業

準決勝　秋田3—2由利工業

決　勝　秋田3—0秋田商業

※男子団体2年連続6度目の優勝

女子団体

1回戦　秋田1—3雄物川

男子ダブルス

ベスト8　松橋・赤坂

同　松渕・渡部

男子シングルス　優勝

松渕健一

※2年連続

ベスト16　松橋　裕

同　赤坂仁志

同　渡部　潤

※東北出場

◆バドミントン

全県総体

男子団体

1回戦　秋田3—1矢島

2回戦　秋田0—3大館鳳鳴

女子団体

1回戦　秋田3—2二ッ井

2回戦　秋田0—3秋田和洋

◆ソフトテニス

中央支部

男子団体　優勝

※十三年ぶり六回目

2回戦　秋田3—0秋田工

準決勝　秋田2—0秋田西

決　勝　秋田2—0金足農

全県総体

男子団体

2回戦　秋田2—1角館

3回戦　秋田2—1秋田中央

4回戦　秋田0—2横手清陵学院

（ベスト8）

女子団体

1回戦　秋田2—1平成

2回戦　秋田2—1大曲

3回戦　秋田2—1角館南

4回戦　秋田0—2秋田西

（ベスト8）

◆テニス

全県総体

男子団体

1回戦　秋田3—0秋田高専

2回戦　秋田1—2能代工業

男子シングルス

佐々木啓　ベスト8

女子団体

1回戦　秋田1—2新屋

女子ダブルス

伊藤理蘭・高岡千弘　ベスト8

女子シングルス

伊藤理蘭　ベスト8

◆山岳

中央支部総体

男子

のてや
NOTEYA
Tel 018-862-3185
Fax 018-824-6954
平岡清明（昭和41年卒）
平岡清和（昭和43年卒）
オフィス用品
お届けします
ASKUL

AQUOSギャラリー
グランフォート ヨロズヤ

水品光一
（昭和41年卒）
携帯 090-3127-6931
〒010-0013 秋田市南通築地1-9
TEL.018－834－6255

優　勝　秋田A　181・7点（安田龍平・菅伸生・佐賀貴正・渡邊和博）
第3位　秋田B　156・2点（鈴木将成・白川駿・三浦隆・竹谷祥吾）
女子
優　勝　秋田A　156点（遠藤睦実・伊藤愛・渡部実唯子）
全県総体
優　勝　秋田A　192点（安田龍平・菅伸生・佐賀貴正・渡邊和博）
3年ぶり13度目の優勝
第5位　秋田B　154点（鈴木将成・白川駿・三浦隆・佐藤琢眞）

ゴール直前の雄姿

◆サッカー
全県総体
2回戦　秋田2―0角館
3回戦　秋田2―1男鹿工業
準々決勝　秋田0―8秋田商業

◆ラグビー
全県総体
2回戦　秋田69―0大館鳳鳴
準決勝　秋田31―5秋田中央
決　勝　秋田25―19秋田工業

3年ぶり5度目の優勝

◆弓道
全県総体
個人戦男子
中根壮（予選6中）
決勝のための射詰競射敗退
個人戦女子
第6位　今田未来（予選6中・決勝4中）

◆柔道
中央支部総体
73kg級　1位　二階堂拡
〃　3位　疋田　純
66kg級　2位　斎藤雄仁
全県総体
団体
予選リーグ
秋田0―2能代
秋田4―0西仙北
個人
66kg級　2位　斎藤雄仁
73kg級　2位　二階堂拡

◆剣道
全県総体
団体
男子予選リーグ1位（2勝0敗）
女子予選リーグ1位（2勝0敗）
男子決勝トーナメント3位
準々決勝
秋田4―0秋田工
準決勝
秋田1―2本荘
女子決勝トーナメント3位
準々決勝
秋田3―1横手城南
準決勝
秋田0―5秋田北
個人
男子　1位　山﨑　洵

◆漕艇
全県総体
男子ダブルスカル（阿部晧・門間拓也）
決勝
優勝　秋田　3:23.24
男子舵手付クォドルプル（石井浩亮・鎌田憲太郎・太田翔・細井拓也・阿部雄太）
決勝
2位　秋田　3:29.00

◆フェンシング
中央支部総体
男子個人　フルーレ
6位　一関公史
女子個人　エペ
1位　面山　結
フルーレ
2位　面山　結
全県総体
女子個人　フルーレ
2位　面山　結

◆硬式野球
『中央地区高等学校野球大会』
優勝　※十二年ぶりの優勝
2回戦　秋田9―1矢島（8回コールド）
準々決勝　秋田8―1秋田高専（7回コールド）
準決勝　秋田5―1秋田商
決　勝　秋田4―3本荘（延長14回）

◆軟式野球
春季県大会
1回戦　秋田7―0秋田商
準決勝　秋田3―7秋田工

◆水泳
中央支部
女子50mバタフライ
1位　田中菜摘子
同100mバタフライ
1位　田中菜摘子
男子800m自由形
2位　猿田陽平
同400m自由形
2位　猿田陽平
男子100m背泳ぎ
2位　川村直輝
同200m背泳ぎ
2位　川村直輝

会務事項報告

18年
2・1　同窓会入会式
2・8　年次名簿委員会
2・17　HP運営委員会
3・1　秋田高校卒業式
3・10　秋田県庁支部総会
3・23　大潟支部総会
4・2　追分支部新入生歓迎会
4・6　秋田高校入学式
4・19　企画委員会
4・25　財政委員会
5・7　名簿委員会
5・18　広報委員会
5・19　当番年次会議
5・26　東京同窓会定期総会
6・5　役員会
6・15　鹿角支部総会
6・16　大曲支部総会
6・28　理事会
7・8　羽城館特別企画展開催（～8・31）
7・20　「同窓会だより」七十八号発行

事務局だより

●平成一八豪雪を乗り越えて、同窓の皆様もお元気にご活躍の事と存じます。

さて十八年度会費納入の時期となりました。同封の払込取扱票でご協力をお願いいたします。

寄贈図書

『獨楽庵切抜帖』（全12冊）冨野巳代治（昭7卒）
『昭和25年卒第29会同窓会のつどい』小林　良弘（昭25卒）
『礎八〇秋田高校昭和29年卒交友録』長野　佳司（昭29卒）
『北の言の葉』柴山　芳隆（昭36卒）

●皆さんは、田所哲太郎という人物をご存知だろうか。『先蹤録』にも載っており、肖像写真が、羽城館（同窓会館）に掲額されている。

田所哲太郎（一八八五～一九八〇）先生は、明治三十七年秋田中学卒業。現北海道大学の教授となり、生物化学の分野で日本を代表する学者として活躍。

秋田北盟寮は、先生の尽力により設立・発展した。秋田中学・秋田高校の卒業生も多数、北盟寮から巣立っている。

この度、遺品を寄贈された秋田県育英会より、遺族の意志を尊重して田所先生のご功績を現代にも伝えたいとの申し出があり、先生の遺品を同窓会でお預かりし、その一部（シェイクスピア全集、机等）を羽城館に展示している。

平成18年度 広報委員

田宮　忠（昭32卒）
高島　清子（昭33卒）
大和　宇一（昭34卒）
柴山　芳隆（昭36卒）
寺田　和夫（昭41卒・学校）
舘岡　曜子（昭46卒・学校）
石塚　政吾（昭54卒・学校）
大友　直（昭57卒）
松岡　直樹（昭61卒）
柘植　静子（平4卒・学校）

哀悼（敬称略）

謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

17年
1月
石川　雄幸（昭46）
小野仁豊美（昭54）
森川　雄三（昭11）
渡辺　勇孝（昭39）
土肥　邦治（昭39）
鈴木　厳（昭21）
辻　安春（昭11）
村井　直登（昭47）
矢守　久（昭34）
加藤　孝志（昭36）
9月
佐々木栄次郎（昭28）
佐々木敏男（昭19）
10月
大橋　健一（昭26）
武田　武（昭11）
11月
森　伊三郎（昭19）
須磨　和彦（昭33）
市川　稔（昭11）
佐藤　文雄（昭14）
石郷岡幸男（昭34）
高橋　治郎（昭28定）
三村　隆（昭20⑤）
12月
西田　俊策（昭15）
土田　武（昭20⑤）
和賀　重隆（昭35）
江本　陽子（平8）
小泉金次郎（昭29）
寺口石次郎（昭10）
長嶺　三雄（昭13）
片岡　保夫（昭26）
佐々木隆三（昭26）
太田　保高（昭27）
長谷川　優（昭41）
石垣　良司（昭25）
18年
1月
堀井　久敏（昭16）
高橋　竹蔵（昭8）
伊勢　宗弘（昭29）
富田　重春（昭30）
嵯峨　弘康（昭31）
小野　義孝（昭46）
芋田　孝三（昭12）
加藤　周二（昭13）
斎藤　周英（昭18）
倉部　魁（昭25）
鈴木　恭三（昭14）
三浦孝四郎（旧職員）
2月
鎌田豊三郎（昭25）
佐藤　篤雄（昭22）
工藤　耕一（昭19）
高山　正（昭20⑤）
鎌田　柾隆（昭34）
長谷部　優（昭60）
吉田　義孝（昭25）
河田　正隆（昭22）
3月
佐藤　周一（昭20⑤）
汐見　一光（昭22）
村越　茂雄（昭14）
高橋　均（昭27）
佐藤　久（昭18）
藤原　豪男（昭27）
佐々木令温（昭8）
結城　性瑞（昭21）
岡部　信篤（昭14）
4月
梅津　忠誠（昭18）
小出　良雄（昭14）
佐藤　準一（昭29）
佐々木二郎（昭15）
石塚　庸雄（昭17）
秋山　光雄（元校長）
国柄　隼男（昭11）
上田　司（昭29）
佐々木金吾（昭32）
長谷川正司（昭16）
相澤　宏邦（昭27）
佐藤和三郎（昭20⑤）
森田　潔（昭55）
5月
二田　正義（昭40）
菅野　俊隆（昭29定）
高橋　寛昭（昭33）
渡辺　卓朗（昭10）
細谷　藤義（昭31）
嵯峨　均（昭53）
薄田啓二郎（昭18）
高田　誠一（昭16）
佐藤　正巳（昭30）
鈴木　英夫（昭25）
宇佐美悦朗（昭25）
6月
進藤　弘（昭17）
相馬　芳満（昭49）
稲葉　茂（昭20⑤）
進藤　善之（昭26）